

松下 功 追悼演奏会

—余韻嫋嫋—

よいんじょうじょう

アンサンブル東風 第20回定期演奏会

海へ、そして夢に 2015
室内合奏のための

天空の光 2008
室内オーケストラのための

舞あそぶ音に 2016
箏とオーケストラのための

このこと 2009 詩:大伴旅人
邦楽合奏のための

飛天遊 1993/94
和太鼓協奏曲

日本舞踊 筝 和太鼓 指揮
花柳美輝風 遠藤千晶 林 英哲 ショルト・ナジ (友情出演)

邦楽合奏
深海合奏団

三絃/深海さとみ・深海あいみ 一箏/平田紀子・安嶋三保子
二箏/石田真奈美・石本かおり 十七絃/鳥越菜々子・林正典

アンサンブル東風 Ensemble Kochi, Japan

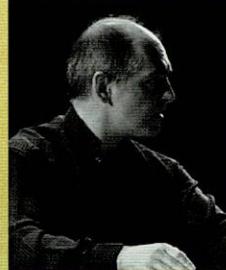
Fl/姫本さやか Ob/中江暁子 Cl/大成雅志 Bn/依田晃宣 Hr/堂山敦史
Tp/平井志郎 Tb/加藤直明 Pc/鈴木珠緒 Hp/堀米綾 Pf/及川夕美
Vn/花田和加子 古川仁菜 Va/中島久美 Vc/松本卓以 Cb/那須野直裕
作曲/松下功 小坂咲子 森田佳代子 朴銀荷 音楽学/長野麻子



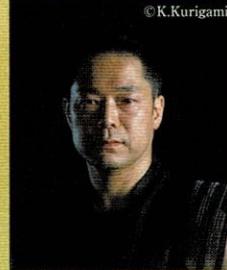
花柳美輝風



遠藤千晶



ショルト・ナジ



林 英哲



深海合奏団



アンサンブル東風

松下先生が長い年月をかけて作り上げた「アンサンブル東風」。
美しい余韻を持ったフィナーレを皆様に届けたいです。——コシノジュンコ

2019 2/14 木 紀尾井ホール

開演 19:00 (開場 18:15)

入場料 5,000円 (全席自由)

前売りチケット [12月1日発売開始]

マネージメント・チケットお問い合わせ

カンフェティチケットセンター

[TEL] 0120-240-540 [PC] <http://confetti-web.com>

一般社団法人日本作曲家協議会(JFC)

[TEL] 03-6276-1177 [PC] www.jfc-composers.net [E-mail] concert@jfc.gr.jp

余韻嫋嫋として あまねく宇宙に――

夢枕 猛

五十代の後半か、六十歳になった頃、「もう、このくらいでいいか」と思ったことがある。

それはつまり、好きな曲であったり、趣味であったり、友人であったり色々だが、これまで好きになったもの、知り合った友人だけで、残りの一生、生きていけるんじゃないかな、そんなことを考えたのである。

書く仕事は、好きで病気のようなものだから、一生やることは決まっているし、空いた時間は釣りやら落語やら、格闘技を観に行ったりで、充分埋めることができる。これまで好きになった曲だけで、新しい曲を好きにならなくても、充分に音楽を楽しむことができる。

残り時間があとどれくらいかはわからないが、若い時に感じていたように無限ではないし、六十代に残された時間は、けして多いわけではない。知り合いが増えると、その分、仕事の量が減るであろうし、釣りに行ける時間も減ってしまうのではないか。新しいことを、自ら拒否するつもりは毛頭ないが、残り時間をこれまで好きになったものだけでやっていけると思ったのだ。

そういう時に、松下功さんと出会ったのである。場所は、シェ・イノというフレンチレストランである。藝大の宮廻先生の紹介だった。「オペラの作詞をしてくれませんか」と、会うなり松下さんは言った。テーマは「遣唐使」であるという。日本と中国で上演できるもの。おもしろそうだったので、「やります」と返事をして、一年くらいで書きあげたのではないか。

こっちは、オペラのことはまるでわからないので、歌舞伎の台本を始めて書いた時のように、かたちから入った。どのくらいの長さ（枚数）がいいのか。一行目はひとマスあけるのかどうか。台詞と歌詞の部分は、どう書きわけるのか。何幕にしたらよいのか。オペラとは、どういう形式、段落によって書かれるものなのか。アリアとは何か。

そういう基本的なところを、みんな松下さんが教えてくれたのである。

この時の台本『長安悲恋』は、中国語訳もでき、作曲もすんで、西安と北京で上演されることもみんな決まったにもかかわらず、尖閣諸島の問題が起って中止になってしまった。しかし、これにこりたわけではなく、松下さんとは、一緒に実に多くの仕事（作詞、作曲という関係以上のこと）をやってきた。

居酒屋で、ふたりで一杯やりながら、

「オペラは、ハッピーエンドじゃなくていいんです。悲劇がいいんです」という話もした。

「え、この人、ここで死んじゃっていいんですか？」

「死んでいただいてかまいません」

横の席で、この会話を耳にした方は、このふたり、何だろうと思ったに違いない。松下さんは、人たらしで、ほめ上手で、ぼくが書いたものを何でもほめてくれた。

この年齢で、自分の書いたものをほめられるということなど、そんなにあることではないので、それがまたぼくには嬉しくて、楽しかった。

「いつも松下さん、無茶ぶりするからなあ」

仕事で会う時、ぼくはいつもそう言っていた。突然台本だの、作詞の話が舞い込んでくるのである。しかし、ぼくは自分のことを書く職人であると思っているので、無茶ぶりされればされるほど、やってやろうじゃないのと、職人魂が燃えたりしていたのである。

それでも、もう一本、オペラの話が舞い込んできた。“蝶々夫人のその後の物語”というのがテーマで、これは、コシノジュンコさんのご主人である鈴木弘之さんの原作であった。これは、ぼくの作詞は全部すんで、あとは松下さんが残り半分を作曲すれば完成というところまでいっていたのである。

コシノさんとオペラの打ち合わせをし、その後、松下さんとワインで一杯。お互にいそがしくて、メタボ系の病気も似たようなものを抱えていて、それでも、「お互い、あと十年は一緒に遊べるでしょう」

「おもしろいことだけやって、生きていきたいねえ」

などと話していた二日後、松下さんの訃報を耳にしたのである。

六十歳の時、もうこれでいいかなあ、と思っていた、あれって、いったい何だったんだろう。

松下さんと知りあって、これまでと違うおもしろいことを色々やって、同じような年代のおもしろい知り合い、友人が何人もできて。あらら、おれの残り時間のすごし方戦略、どうなっちゃったのよ。とんでもないかんちがい。新しいことって、おもしろいことばっかじゃん、と、思っていた矢先の訃報であった。

きっと、松下さん、まだ、自分が亡くなったの、気づいてないんじゃないのかなあ。思い出すと、いつも涙があふれてくるのである。

いったいどこに行っちゃったのよ。

おれは、あと十年、一緒に遊びたかったよ。

余韻嫋嫋として、あまねく宇宙に満ちて、草木、花、山、川、風、空、石、大地、あらゆるものの中にはのかかる神のごとに宿り、響き、響いて、響き止むことなし。

プロフィール

松下 功（作曲家・指揮者）

1951年生まれ。東京藝術大学、同大学院修了。ベルリン芸術大学に留学。以後、86年までベルリンに滞在し創作活動を行う。86年、第7回入野賞受賞。98年に長野冬季オリンピック文化プログラム・オペラ「信濃の国・善光寺物語」や開閉会式選手入场の音楽を作曲。2000年和太鼓協奏曲「飛天遊」が、ベルリンフィル・サマーコンサートで演奏され好評を博す。1999年～2004年、また2014年に再選され、アジア作曲家連盟（ACL）会長を務める。日本で開催されたACL音楽祭では実行委員長を務め、大会を成功に導く。東京藝術大学副学長、東京藝術大学演奏藝術センター教授。作曲家、指揮者。日本作曲家協議会会長、東京オリンピック・パラリンピック競技大会 文化・教育委員会委員などを務める。2016年から東京藝術大学で開催したSummer Arts Japanでは、音楽、科学、スポーツなどのコラボレーションにより、新たなアーツの世界を切り開いた。2017年11月にはベルリンフィル・シャルーンアンサンブルと森山開次により「舞・飛天遊」を開催。AIを使用した斬新なステージが、米国のサイトで500万再生されるなど話題を呼んだ。2018年4月にはアダビで開催されたCulture Summitに招待されパネリストを務めた。2018年9月16日逝去。



紀尾井ホール

東京都千代田区紀尾井町6番5号

アクセス

- 四ツ谷駅（JR線・丸の内線・南北線）麹町口徒歩6分
- 麹町駅2番出口（有楽町線）徒歩8分
- 赤坂見附駅D出口（銀座線・丸の内線）徒歩8分
- 永田町駅7番出口（半蔵門線・有楽町線）徒歩8分